



# こんにちは、 岐教事です！

岐阜教育事務所だより  
12月号 (No. 9)  
平成29年12月21日発行

## 学力向上推進会議 3『岐阜地区全体会』を実施しました

教育支援課 学校教育係

平成29年12月8日(金) 山県市美山中央公民館にて学力向上推進会議3「岐阜地区全体会」を実施しました。参加いただいた方は、各小・中学校、義務教育学校の学力向上推進教師の皆さんです。

【全体説明①】 実践発表「大学連携の取組」山県市立美山小学校、山県市の実践から

### 【参加者の声】

- ・ 検証が確実に行われていることが伝わり、確かな歩みがなされていることに共感できた。
- ・ 子ども自らが評価し、自己選択する取組も興味深かった。
- ・ 教師のしゃべりすぎが本校の課題である。授業分析のST法を使って、「見える化」することは、改善の一助となる。
- ・ 自校の取組の重点と一致するところであり、参考になった。
- ・ メーガの授業設計、新鮮でした。シンプルだけど、大切なポイントが明確にされている。
- ・ 市内の教職員が共有し、実践していることが学力向上につながっていると思う。

### ★ 実践のポイント！

- ・ 美山小学校の指導改善の視点は、『伝え合う活動の充実』と『学びを個に』の2つ。
- ・ 伝え合う活動では、「内容を理解するために」「学習内容の定着を図るために」「考えを広げ、深めるために」等、目的を明らかにすることが大切。
- ・ 学びを個に返すために、活動や問題を自己選択する場や学んだことを生活に生かすような問題を用意し、学習に対して主体的に学べるようにすることが大切。
- ・ 「3つの見届ける」は、教師だけでなく、児童相互、児童自身も行うことができる。自己評価能力の育成が重要。



国語、算数での実践で、児童の姿が変わる。教師の意識も変わる。他の教育活動にも広がり、教師の協働が一層効果的に機能する2年間の取組を紹介していただきました。

【全体説明②】 質問紙調査からみる児童生徒の実態と、学力向上・指導改善の取組

### 【参加者の声】

- ・ 児童生徒アンケート結果から、学力向上について考察されていたことに新鮮さを感じた。
- ・ 意味のない反復練習をさせるのではなく、授業の続きになったり、考えさせたりする家庭学習にすることが大切であると思った。
- ・ 「自校の強みを生かした」という言葉から自校を振り返ったとき、本校の強みが確かにあると感じた。
- ・ やや復習にこだわっていた。「次は～の学習をするよ。」と投げかけることで予習をし、興味や見通しをもって学習することで質が高まり、自主性にもつながるので、取り入れたいと思った。
- ・ 3割の子への指導というのは、数値としても大変わかりやすく、学校に戻って伝えたいと思った。
- ・ 自校と県、全国との比較をこういった形でできたことが興味深かった。参加型の講話は大変参考になった。
- ・ 平均に表れない個の実態をいかに把握するか、本校も考えたい。

### ★ 説明のポイント！

ポイント① 自己肯定感の結果から、「授業でも、子どもの自己肯定感を高めていきましょう」

ポイント② 家庭学習の結果から、「子どもに目的をもたせて、自己選択の場を設定しましょう」

ポイント③ 話し合い活動の結果から、「考えが深まっていない3割の子(個)への丁寧な指導を心掛けましょう」

## 【協議】 課題別交流

### 課題別テーマ一覧

- [ 課題 A ] 教科の専門性向上と指導改善
- [ 課題 B ] 学習規律や学習習慣、学び方
- [ 課題 C ] 研究体制やチーム学校としての取組



課題別交流では、事前の希望をもとに、小グループで各校の取組や実践を交流しました。交流された学校独自の取組の一部について紹介します。

#### 【 課題 A 】

##### ○「低学年活動部屋」

主体的・協働的な学びができるよう、低学年用の学習室を設ける。学習環境を学習に応じてレイアウトできるように、低学年の実態に合わせて、可動容易な机・椅子を用意し、十分な広さの活動スペースを確保している。校内では、低学年から教科横断的な資質・能力の育成の視点を取り入れた指導改善を行っており、この学習室が日常的に活用されている。

##### ○「SS活動」

生徒同士で考えや表現を交流し、学びを深めて行くことを目的とした学習活動を設定している。研究職員会の中で、教師がSS活動のロールプレイを行い、指導法を確かめるとともに、有効性を教師が再認識した。また、「SSマニュアル」を作成し、生徒とも目指す授業を共通理解している。教科等の特質や学習環境等も考慮し、校内研究の柱の1つとして、全職員で取り組んでいる。

### 自校の強みを生かした指導改善

#### 【 課題 B 】

##### ○「今日のスター」

設定された各月のテーマから、素晴らしい仲間に対して学級内で「今日のスター」を選出する。「今日のスター」の中からMVPが選ばれ、生徒会が中心となり、校内で特に誇れる姿を「(校名)ヒーローズ」として認定される。仲間のよさを認め合うこの取組が、自己肯定感を高めることにもつながっている。

##### ○「サマースクール」

夏休みの夏季休業期間に、希望者を対象に4日間の学習支援を行う。コミュニティースクールの学校支援部会の協力のもと、大学生やボランティア団体、学校職員が講師となり、児童一人一人のニーズに対応できる人数を確保した。児童の質問に回答するだけでなく、学習の仕方の紹介や気付いていない誤りの指摘、励ましの言葉をかけることも意識して指導にあたった。

#### 【 課題 C 】

##### ○「とっておきの発問」

自分の考えを深めたり、広げたりする力を高めるため、授業で立ち止まって考える場を設定し、工夫した発問を教師が考える。何を子どもに問えばよいか考えることが、教師の指導力につながる。この取組は、研推だよりで発信。校内で共通理解を図っている。

##### ○「学ばせていただきます券」

校内の教師が互いに具体的な指導法を学び合い、授業力の向上を目指して「学ばせていただきます券」が作成されている。券には「日時」と「誰の何の教科か」、そして「お願いメッセージ」の記入欄がある。特に、お願いメッセージを通して、何について学びたいのか授業者と参観者が参観の視点を共有することができ、日常的に学び合える仕組みがつけられている。



この協議では、それぞれの学校の取組や実践が交流されました。今後の参考となるものがたくさんあり、各校の実態に応じて活用できそうです。

自校の実態を把握する際、私たちは「全体の傾向」や「調査の平均」を参考にしますが、指導の工夫改善には、平均に表れない個の実態もしっかり見届けることが大切です。今後も調査の結果に一喜一憂することなく、目の前の児童生徒一人一人に確かな力を育んでいきましょう。

校内の指導改善サイクルを推進するためには、組織の力が重要になります。まずは、校内で自校の課題だけでなく「自校の強み」、そして「工夫改善の視点」の共通理解を図りましょう。年度末に向けて、本年度の成果の分析を行うとともに、来年度の方向を定めていきましょう。